



空き家情報、
交換しませんか？

空き家から
はじまる
小さな幸せ

空き家

AKIYA SHINBUN

新聞

vol.04

空き家新聞は、調布市・狛江市・三鷹市・府中市と、共立女子大学、手紙社の産学官連携のもと、地域に眠る空き家を発掘し有効活用しようとする取り組みを発信する新聞です。
年3回の情報発信を通じて、空き家を所有するみなさんからの各種相談や、古い建物が好きで空き家の活用に興味のあるみなさんとのマッチングなども企画します。
空き家の活用事例など、ちょっとワクワクするかもしれないニュースレターをお楽しみください！



INDEX

【特集①】

チームでつくる
空き家の未来 …… P.2

【特集②】

空き家の引継ぎ手を
募集します …… P.4

自治体からのお知らせ …… P.6



東野川発、子育て仲間の3人で 実現する空き家の未来。

空いているスペースがあるんだけど、
見に来ない!? 地域に開かれた工房へ

狛江市内にて地域に開かれた工房を運営している団体「PLATHOME」。共同代表の飯野さんの親族が所有する空き家を、事務所兼工房として5年前から活用しています。飯野さんはTシャツや雑貨などのグッズ制作の会社を経営しており、そのノウハウや機材を地域の方も利用できるようにしています。空き家の一室を利用した工房には、インクジェットプリンターや刺繍機械、レーザーカッターなどの機材が並びます。飯野さんは自身でも「さみしがり屋」というほど人と一緒にいるのが好きなタイプ。開設当時は、2020年のコロナ渦中でもあり、顔見知りが増える機会が少なかったため、ひとりでコツコツ続ける作業は寂しかったと、もう思い出となった当時をにやかな表情で語ってくれました。地縁もなかったため、まずは知り合いを増やそうと、様々なイベントに顔を出し「空いているス



「つくる楽しさを通じて、地域のつながりと新しい働き方を生み出す」をビジョンに掲げ、東京都狛江市を拠点に活動している団体「PLATHOME」。これまで、ワークショップやマルシェを開催したり、こともたちの居場所を開いたり「こんなものがあつたらいいな」と思うものを地域の人たちと一緒に作ってきました。

運営：PLATHOME労働者協同組合
住所：東京都狛江市東野川4-9-11
URL：https://plathome.space
Mail：info@plathome.space

学校でも家庭でもない、
好奇心のままに過ごせる、
もうひとつの居場所

「放課後カルチャークラブ」



いつもの放課後に、ちょっと“わくわく”する新たな風を。ジャンルにとらわれない、自由なカルチャー体験として、レーザー加工機を使ったものづくりや、庭の梅の木から実を収穫してつくる梅ジュース、見たことのないボードゲーム大会など子どもたちの「やってみたい!」を形にしていきます。

スがあるんだけど、何かここでやってみたいことない?」と誘いつつ、興味をもってくれた人が訪れやすいように毎週水曜日をオープンデーとしました。

何をするわけでもないけど、
人が集まる場所になっていく

飯野さんは、オープンデーを定期で開催しつつ、グッズ制作を手伝ってくれる方を募集しはじめます。そこで知り合ったのが杠（ゆずり）さんで、知人から「面白そうな工房で制作のお手伝いを募集している」と紹介してもらったのがきっかけでした。マッシュルームヘアで大きな人がポツンと待っていたと初めて訪れた時の印象を語ります。娘が美術に興味があり、身近にデザインを生業とする大人がいたら娘にとってよい影響になるのでは、と自分がつなぎ役になるつもりで工房の作業を手伝うことにしたそうです。もう一人のメンバー石田さんは、SNSでこの場所のことを知り訪れました。もともとの

づくりの現場で仕事をしたことがあった石田さんは、工房にインクジェットプリンターや精密な刺繍機が並ぶ様子を見てワクワクしたそうです。ちょうど子ども達も成長し仕事を再開しようというタイミングでもあったため、不定期でお手伝いははじめました。その後も、飯野さんのユニークな風貌と人懐こい人柄もあってか、いつの間にか色々な人が集まる場所になったそうです。「自家製味噌をつくったよ」と差し入れをもってくる人、特に用はないけど話をしにくるだけの人、様々な顔ぶれが週ごとに増えていきました。「マッシュ（飯野さんの愛称）は広報活動が上手」と杠さんは頷きます。

地域の小さな課題を
「なんかやりたいね」から解きほぐす

同世代の子どもがいる3人は、話題も自然と子育てが中心になっていきました。学校と自宅以外に子ども達が過ごせる児童館のような場が周辺に少なく、暑い時にはちょっと休める涼し

いところが欲しい、といった要望からはじまり、夏休みになると悩みの種となる自由研究何しようか問題など。そんな雑談からでてくる雑多な地域の小さな悩みを、「マッシュ、〇〇でできないかな?」と杠さんと石田さんは、飯野さんにオフアをだします。飯野さんは、2人からの「こんなのがあったらいいね」を受けると、すぐにリサーチしたり、試しに形にしたり。翌日には「こんなはどう?」と具体的な企画が二人の前にてきます。制作工房のお手伝いからスタートした3人の関係は、地域の小さな課題をときほぐすひとつのチームに変わっていきます。

東野川発、「放課後カルチャークラブ」
はじめます

最初の「学校と自宅以外に子どもたちが過ごせるちょっとした場が無い」という課題に対しては、「放課後カルチャークラブ」と称して、子どもが主体的にもものづくりに取り組める場を開くことにしました。スポーツ系の活動サークルは多いものの文化系の活動場所が少ないという近隣の子どもたちの受け皿としても期待されています。東野川のエリアは、バスの便も含めて駅からのア

クセスが良いとはいえません。だからこそ、コミュニティがしっかりあって、つながりを感じやすく暮らしやすい、そんな地域の特性を伸ばしていきたいと3人は語ります。

みんなでやると楽しいよね

3人の組織は、トップダウンで決めていくのではなく、それぞれの意見を尊重できる組織のあり方を目指し、昨年から「労働者協同組合」として新たにスタートを切りました。それぞれ子育ても折り返し地点となり、人生のセカンドキャリアを考えたときに、誰かに指示したりされたりして行動する働き方でなく、相互に意志決定して楽しく地域で活動できる場があったら、というのが3人の共通の認識です。地域活動はボランティア的側面が強く、負担になり過ぎないバランス感が重要とのこと。補助金を活用したり、クラウドファンディングに挑戦したりと、各々の得意分野から知恵を出し合って、自分たちが楽しむことが大切なのだと語ります。





調布ヶ丘のレトロな戸建て 空き家の引継ぎ手を募集します！

「良い立地なので、売らないで」
母の意志を尊重して

調布ヶ丘にある庭付きのレトロな戸建て住宅にて、入居者を募集します。家主のMさんは、幼少期から約20年暮らしたこの住まいを、昨年、お兄さんと共有で相続しました。売却ではなく、賃貸に出すという選択は、生前、お母様の言っていた「良い立地なので、すぐに売らないで」という言葉を尊重したためです。また、兄弟それぞれ別の場所に自身の住まいを構えており、子ども達も幼少期を過ぎたタイミングなので、自分たちの住まいにするという選択肢もないのだそうです。現在は、大きな家具類の片付けから着手をしているという状況です。

「空き家新聞」をきっかけに動く物語

昨年、相続手続きで調布市役所の「お悔みコーナー」を訪問したMさんは、そこで「空き家の活用については、住宅課を訪ねるとよいのでは」というアドバイスをもらいました。住宅課の窓口に掲載されていた「空き家新聞」を取り、そこに掲載されていた活用事例や家主の思いなどに共感したそうです。生前のご両親は調布市内に長く住んでおり、友人知人も多く、この地に愛着があったため、うまく活用できないかと模索しはじめました。

路地に面した工房は昭和の社交場にも

生前のお父様は機械彫刻で看板などの制作を生業としていました。「手先が器用で棚でもな

庭にはもみじやラズベリーの菜園が
不動産的にもGOODな物件

南側にはプライベートな裏庭があり、昭和な風情を醸し出しています。風にそよぐもみじを縁側から眺め、植えられたラズベリーを収穫すれば、たくさんのジャムがつくれると言います。立地は調布駅から徒歩9分程度、甲州街道を抜けて、喧噪から離れた静かな住宅地の中にあります。建物は、築52年で、随所に和のテイストを見ることが出来ます。お風呂とトイレはリフォームされているので、比較的新しいものです。

ずっと母の姿があつて
家族の真ん中だった食堂

2階の台所兼食堂は、料理が得意だったお母様の姿がいつもある空間で、家族もいつもここ

んでも自分でつくることができて、自宅が仕事場だったので社交的でした」とMさん。この工房には、いつも近所の友人知人が立ち寄り、将棋をさしたり世間話をしたりと、たまり場のような存在だったそうです。

に集まっていたそうです。「おばあちゃんの料理は本当になんでも美味しかった」と幼少期をこの家で過ごしたMさんの子どもたち。お母様は若い頃にベルギーで生活をしていたことがあるそうで、近所に住むインド人留学生に日本語を教えたり、お節をふるまったりと、この食堂が生活の中心になっていたそうです。

年内に見学会を予定
入居は年明けというスケジュール

この物件の見学会は、秋から冬にかけて企画していきます。賃貸条件など具体的な設定は次回以降の空き家新聞で掲載していく予定です。法律の範囲内であれば利用用途に制限はありませんが、家主のMさんは人の集まる場所にしてもらえたらという期待感をもっていらっしゃいます。乞うご期待！

レトロな
POINT！

POINT
1



縁側のついた8畳の客間

普段は使わずに正月やお盆などの家族が集まる時に活躍する客間。お茶の稽古の場所としても使われていました。

POINT
2



ガラリと開ける引き戸の玄関

広い玄関や廊下のあるアプローチは、日本人ならではの靴を脱ぐ文化だからその余白のある空間です。

POINT
3



花柄モチーフのクッションフロア

柔らかな曲線のパターンの連続が印象的な意匠です。日常的に利用する場所だから明るく素敵な空気を保ちたいものです。



物件概要

【所在地】調布市調布ヶ丘一丁目
（調布駅から徒歩9分）
【土地】122.18㎡
【建物】94.6㎡
【構造】木造2階建て
【築年】1973年8月
【間取】5DK+工房 駐車場1台
【賃料】11万円～15万円
※初期改修内容に応じて応相談
【契約】定期借家契約



各市からの最新情報 & お問い合わせ窓口

調布市

★調布市では空き住宅や空き店舗を活用する事業者に対し、多様な交流の場の創出、生活の利便性の向上、コミュニティ活性化等、地域の活動拠点作りを通じたエリアリノベーションの推進を図ることを目的にその空き家等の改修工事の経費の一部を補助しています（調布市空き家等リノベーションスタートアップ補助金）。



★市のホームページにて「空き家バンク」を開設しています。空き家所有者および利用希望者の登録ができます。詳細は市のホームページをご確認ください。



★住まいの終活相談窓口（空き家相談）を奇数月の第3週金曜日に開設しています。住宅に関する相談を無料でお受けいたします。（事前予約制、1組50分です）。

★調布市では、令和7年8月から12月頃まで市内全域を対象とした空き家実態調査を行います。調査時は身分証を持った調査員が外観の確認をいたします。

調布市都市整備部住宅課住宅支援係

TEL：042-481-7817 9:00～17:00（土・日・祝日休）
akiya@city.chofu.lg.jp

三鷹市

★三鷹市空き家活用マッチング支援事業がスタートしました。この事業は空き家の活用に関心のある所有者と、空き家を活用して地域のために活動したい人々とマッチングするものでアドバイザーが必要に応じて助言、協力することで、円滑なマッチングを支援します。



★三鷹市役所本庁舎1Fのホールにおいて、空き家所有者向けの無料相談会を定期で開催しています。（次回9/25、9/26）。詳細は下記までご連絡ください。

★三鷹市では「空き家マチレット」を発行しています。空き家に関わる問題・危険性・管理することで生まれるメリットをわかりやすく説明しています。

三鷹市都市再生部住宅政策課

TEL：0422-29-9704 8:30～17:00（土・日・祝日休）
jutaku@city.mitaka.lg.jp

狛江市

★狛江市では事業者と協定を締結し、お持ちの空き家についてのお悩みを相談できるワンストップの相談窓口を設置しています。空家の適正管理・相続・賃貸・売却・借り上げ・有効利用などについてお困りの際はご連絡ください。



★狛江市では「住宅支援関係ガイドブック」を発行しています。木造住宅の耐震化や危険ブロック塀撤去等、空き家でも利用可能な各種助成金を説明しています。令和7年度からは、木造住宅の解体助成制度を開始しました。詳細は市のホームページをご確認いただく下記までご連絡ください。



狛江市都市建設部まちづくり事業課住宅係

TEL：03-3430-1359 9:00～17:00（土・日・祝日休）
jutakut@city.komae.lg.jp

府中市

★府中市では空き家と相続に関する無料相談会を月1回文化センター等で実施しています。（次回9/19 府中市役所、10/17 住吉文化センター、11/21 是政文化センター）詳細は0120-336-366までご連絡ください。

★府中市役所本庁舎1階でも、隔月で無料相談会を実施しています。（次回9/5、11/7）。詳細は、下記までご連絡ください。

★府中市内の空家等の情報をお寄せください。適正管理・賃貸や売却・相続・利活用などで相談できる窓口がございますので、お気軽に下記までご連絡ください。

府中市生活環境部環境政策課
空き地・空き家対策担当

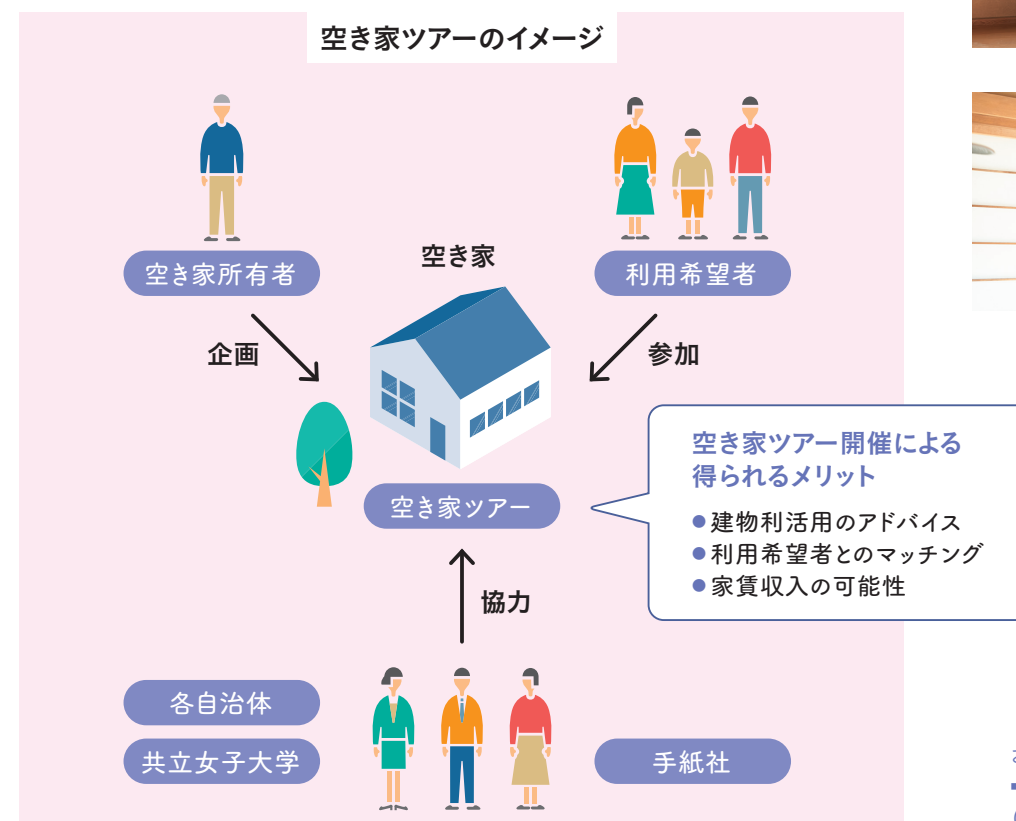
TEL：042-335-4195
8:30～17:00（土・日・祝日休）
kankyo01@city.fuchu.tokyo.jp



空き家を所有されているみなさまへ「空き家ツアー」を企画しませんか？

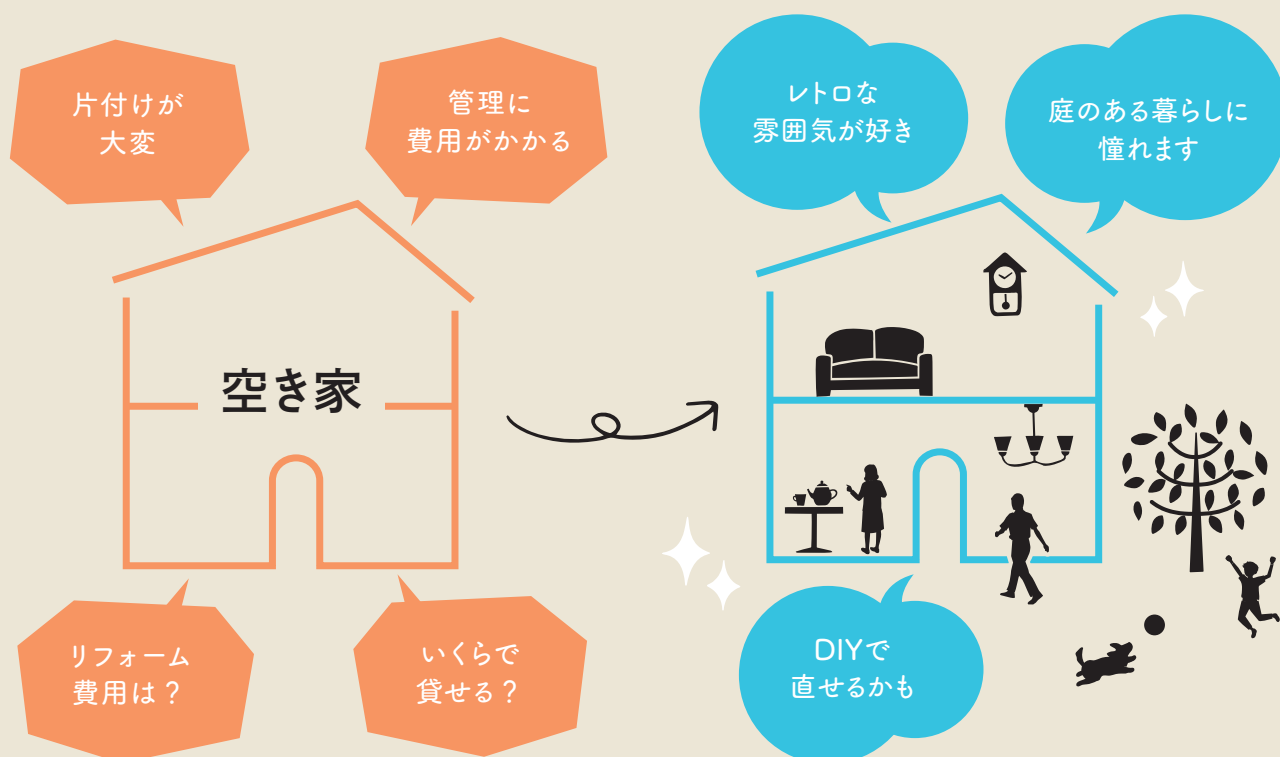


ご所有の空き家を公開して、物件を探している方に現地で実際に見てもらおうという企画です。賃貸や売却など、具体的な活用方向が見えている方だけでなく、利活用や改修の程度に悩まれている方もご相談ください。現況の空き家にどのような活用方法があるのかや家賃設定など、見学者からざっくばらんな意見をもらいます。具体的に使いたい方とのご縁をつないだり、利活用の意外なアイデアの発見につながるかもしれません。



お問い合わせ窓口
→ fudosan@tegamisha.com
（担当：手紙社・市川）

空き家はレトロで かわいいかも!?



地域に眠る遊休不動産を発見し、活用したい。

情報発信や
ユーザーとの
マッチング

〔地域の企業〕
株式会社手紙社

お問合わせ：手紙社不動産
メール：fudosan@tegamisha.com

相談窓口の紹介
税金、補助金などの
サポート

〔自治体〕
調布市・狛江市・
三鷹市・府中市

お問合わせ先は前頁を
ご参照ください

先進事例の紹介や
学生による
フィールドワーク

〔大学〕
共立女子大学
共立女子短期大学

お問合わせ：同・社会連携センター
電話：03-3237-1994
メール：renkei.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

●制作：手紙社

手紙社は、調布市内でカフェや雑貨店を運営し「東京蚤の市」などのイベントを全国各地で企画開催、また書籍の出版や不動産事業も手がける会社です。小さくても確かな幸せをお届けするために、ワクワクすることを日々編集しているチームです。

お問合わせ → 調布市都市整備部住宅課住宅支援係 TEL:042-481-7817

2025.8.22